

諸 会 議 報 告

会 議 名	令和 4 年第 2 回カリキュラム評価委員会
開 催 日	令和 5 年 3 月 13 日 (月)
報 告 者	菅 野 教 授
<p>議題・報告事項・連絡事項及び要旨</p> <p>議題</p> <p>1. 医学科における進級状況について・・・資料No. 1 議長より資料 1 に基づき説明があった。令和 4 年度の留年者数がコロナ禍以前の水準であったことから、コロナの影響を受けずにコロナ以前と同等の成績評価ができていると考えられる旨の説明があった。</p> <p>2. 共用試験 CBT 過去 3 年分の結果について・・・資料No. 2 議長より資料 No. 2 に基づき説明があった。2022 年度は細胞の構成と機能、個体の発生、生体物質の代謝において、正答率 70%を切っていたが、これは生化学が 1 年生に降りて遺伝学と並行して実施するようになったことが影響していると考えられる旨、説明があった。その後カリキュラムの修正を行っているので、次年度以降は本項目についても改善される見込みである旨、説明があった。</p> <p>3. 共用試験 OSCE 過去 3 年分の結果について・・・資料No. 3 議長より、資料 No. 3 に基づき説明があった。4 年生 OSCE は本年度から公的化により課題数が増加し、学修すべき内容が増えたことから、成績が低下していると考えられる旨、説明があった。なお課題数は増えたが、実習で教えるべきことが増えたわけではないので、実習は現在の内容で継続していく旨も併せて説明があった。6 年生 OSCE については、例年並みの成績である旨、報告があった。</p> <p>4. 医学科 5・6 年生における医学生としての能力について・・・資料No. 4 議長より、資料 No. 4 について説明があった。「病歴を聴取して身体診察を行う」や「基本的な検査の結果を解釈する」といった項目では 6 年生が 5 年生より高い値を示す一方、「インフォームド・コンセントを得る」といった項目で 5・6 年生の差が少ないことから、これらの項目は実習で強化していくことを検討する旨、説明があった。</p> <p>5. カリキュラム (1～3 年) についての検証・分析と評価・・・資料No. 5 議長より資料 No. 5 について説明があった。学生委員より、2 年生のカリキュラムにおいて試験日程が非常に大変であり、改善を求める要求があった。 2 年前期科目で総合試験を実施するかについては、意見が分かれ、再試と総合試験それぞれのメリット・デメリットが挙げられた。2 年前期授業担当教員より、記述式の方が学生の理解度と記憶の定着に効果があると考えられるとの意見があり、2 年前期科目については引き続き再試験で対応することとした。 また、2 年前期から後期への橋渡しとして細胞生物学を深めるべきではないかとの意見もあった。 2 年後期科目については、臨床と基礎で互いの詳細内容把握・構成にまで至っておらず、垂直統合が不完全ではないかとの指摘が委員からあった。 以上のことから、カリキュラム評価委員会から医学科会議・医学教育研修センターへ以下の 3 つを提言することとした。</p> <p>① 新カリキュラムにおける試験について、大枠は変えず、試験の日程や中間試験前は学習機会に配慮する等のマイナーチェンジをすべきである</p> <p>② 細胞生物学に関する講義の実施について、その必要性や内容を含め、WG を立ち上げ検討すること (高校生物履修有無も含め検証する)</p> <p>③ 水平・垂直統合を十分に機能させるため、既に終了した講義については内容再検討の機会を設け、次年度に向けて授業を見直すこと、これから実施する講義では基礎・臨床が互いの授業を聴講し、相互</p>	

理解及び授業ブラッシュアップに努めること

6. 令和4年度前期授業における点検と評価・分析について・・・資料No. 6

議長より資料No. 6について説明があった。点検の結果、指摘事項はなく、引き続き授業点検を実施していき、各授業の改善に努めてもらうこととした。

7. 本学カリキュラムにおける学修課題の検討について・・・資料No. 7

議長より、資料No. 7について説明があった。委員から低学年次における細胞生物学が内容として不足しているのではないかという意見があった。また、学生委員からは法的側面を含め医療労働について学習する機会が必要ではないかとの意見があり、具体的には2024年医師法改正に伴う医師の就労環境、日本の病床数等、労働者や雇用機会について考えることが挙げられた。

議長から、今後現行カリキュラムに入れていくか、または新規で科目設立するかも含めて前向きに検討するよう医学教育研修センターに申し入れする旨、回答があった。

また学生委員から、市中病院と大学病院の違いやJ-OSLERのことなど、今後医師として働くにあたっての基本的な情報収集方法を知る機会も必要ではないかとの意見もあった。

臨床実習に関しては学生委員から、提出物の項目において重複が多い点やクリクラIでのレポート負担が多く、実習中もレポート作成に集中してしまう点、また外科手術で術野に入れない場合、あまり学習にならない点などが学生委員より指摘され、今後改善していく方向で検討することとした。

8. 信州大学医学部医学科における教育課程の点検・評価の実施について・・・資料No. 8

議長より、資料No. 8について説明があった。点検の結果、留学生や障がい者支援の窓口がないこと、また卒業生の就職先への意見聴取が実施されておらず、今後実施すべきであることが指摘され、今後の改善点とし、医学科会議に提言することとした。その他の項目については概ね良好であるとした。

※協議を要する事項

なし